

活動名 エコ工作教室	団体名	広島環境サポーターネットワーク
	地域	広島県広島市
	代表者	常任幹事 増村 浩子
	支援金額	30万円
活動概要		
行政の行う環境イベントの出展ブースにおいて「エコ工作教室」として実施し、自然物や廃棄物を使った工作を行い、自然の大切さや、資源の大切さを学び、地球温暖化について考えました。また、「エコ工作教室・出前環境講座」として小学校や、公民館等においても、廃油から石鹸を作ったり、牛乳パックやペットボトルなど、子ども達の身近な廃棄物を利用しておもちゃなど使用可能なものを作り、誰にでも参加でき誰でもわかりやすい教室を開き、地球環境について考えました。 ◆実施時期：平成20年6月～平成21年1月 広島県・広島市・吉島公民館・倉掛児童館・深川児童館・井口明神小学校・牛田小学校・伴東小学校 ◆参加人数：参加サポーター 105名 工作参加者 1,470名 参加総人員 1,575名		



《倉掛児童館出前環境講座 木工工作》



《牛乳パックが紙トンボに変身》



《ペットボトルで風車作り》



《科学の不思議 マジックエレベーター》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

- ・一昨年よりマツダ財団様からご支援をいただき、いろいろな道具類がそろいました。昨年購入した紙すき道具等を使って、青少年だけでなく大人向けの講座を実施することができました。また、リサイクルに向けていろいろなプログラムを作ることができました。5月20日安佐南区図書館「布ぞうり」、8月24日己斐上公民館「モップづくり」、10月28日WEプラザ「紙すき」、11月21日安佐南区図書館「紙すき」また、今年度購入した木工工作や自然観察の物を使っても袋町公園の観察会を実施しました。2月6日袋町小学校5年PTC団体内の活動が盛んになり、活性化したと思います。
- ・捨ててしまうゴミをおもちゃに変身！ペットボトルからの風車づくりは子どもに人気です。自分が作った風車が回ったときの、にこやかな笑顔は達成感と感激でいっぱいです。また、マジックエレベーター（浮沈子）では、圧力によって空気と水のバランスで浮き沈みする不思議を理解し、科学への興味もそそりました。給食で使った廃油の石鹸づくりも、捨てるものを使えるものに変身することの素晴らしさに感心していました。
- ・今年は、のこぎりやノミなどの工具を揃えました。切れ物ですから扱いは慎重ですが、道具を使いこなす工夫を学んだと思います。道具をあつかう時のこどもたちの真剣なまなざしに感激しました。
- ・昨年、洞爺湖サミットを契機に市民全体が環境について考える機会が増えてきました。私たちの活動を通して、環境にやさしい行動をとり、少しでも地球温暖化をストップさせて、できることから始めようとするきっかけを作ったと思う。

◆苦労した点

- ・環境イベントは恒例であるので、実施できますが、出前講座は通年実施している2モデル以外には予定がないので、実施されるかどうか心配でした。児童館さんから依頼があり、実施できました。
- ・平日の出前講座の場合、参加サポーターを集めるのに苦心しました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・井口明神小や伴東小学校コミュニティランド活動などは年間を通じて活動を始めています。今後もこのようにたくさんの地域で出来るとよいと思います。
- ・今、皆さんが環境に関心があるだけに、私たちも資質向上のために努力していかなくてはならないと思います。
- ・イベントへ参加する場合、参加者（こども）からお金を取らない方向で実施していますので、材料等必要経費がいります。予算がなかったら、活動が縮小してしまうが、個人の負担が少ない上で実施できたらよいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

昨年に引き続き、マツダ財団様からのご支援をいただき、たくさんの素晴らしい活動ができたことを感謝いたします。エコ工作を通して、資源の大切さや自然の大切さを感じ取ったのではないかと思います。捨ててしまえばゴミですが、リサイクルすればまた使えるものに変身するという、物の大切さや工夫する面白さも気づいたのではないかと思います。

ものづくりを通して子ども達の真剣な姿、工夫して道具を操る姿を見て、私たちがたくさんの感動を受けました。子ども達の興味関心は無限であると思いました。そして真剣に取り組む姿を見て活動を行って良かったなと思いました。子ども達から私たちが学びました。

地球温暖化の仕組みを理解するには子ども達にはとても難しいですが、私たちの暮らしが地球環境を悪化させていることを捉え、どうしたらよいかを考えた時間でもあったと思います。子ども達に残してやりたい美しい地球。工作を通して少しでも参加者の環境活動のきっかけ作りになればよいと思いました。